

K.I.S.S. 定例会 第4回目のご案内

— 会員 連絡事項 —

① 第4回勉強会の案内

7月16日18時30分 からです。

青島先生・阪尾先生の発表です。それ以外の症例発表・相談もお待ちしております。

※勉強会の出欠はとりません。

② 今回の定例会も18時30分から講演していただく予定です。

③ 参加・不参加のご返事を 6月23日 までにFAXかメールでお知らせ下さい。

— 定例会案内 —

18:30 加藤 隆史 先生

～ ベッドサイドで見た歯ぎしりの本当の姿

Quintessence
2011年2月号 特集掲載

◆ 日程 2011年 8月 6日 (土)

◆ 時間 土曜日 PM18:30 ~ PM 21:00

◆ 場所 大阪大学中之島センター **7F セミナー室**

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06-6444-2100

— オブザーバーについて —

◆オブザーバー参加費はDr5,000円 その他2,000円です。当日受付にて徴収いたします

◆オブザーバー参加（会員以外の方）は当日部屋の前で受け付けしております。

多数のご参加お待ちしております。



定例会に ・ 参加する ・ 参加しない

懇親会に ・ 参加する ・ 参加しない

ご氏名 _____ TEL _____

ご連絡先 _____ FAX _____

FAX送付先 0774-75-2185



K.I.S.S.第4回定例会

講師 加藤 隆史 先生

大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座
口腔解剖第2教室

演題 ～ ベッドサイドで見た歯ぎしりの本当の姿 ～

顎関節症や口腔顔面痛・頭痛や、補綴装置やインプラントの管理困難な症例の背後に睡眠時ブラキシズムの存在を疑う症例は少なくない。睡眠時ブラキシズム(sleep bruxism)は、国際睡眠関連疾患分類で睡眠関連運動異常症に分類される「睡眠中に生じる比較的単純で定型的な運動」である。その発生率は成人で約10%だが、加齢と共に2～3%にまで減少する。夜間の歯ぎしりを自覚する患者では、歯ぎしり雑音を伴うrhythmicな咀嚼筋活動が多数認められ、閉口筋の収縮力は健常者に比べて高い。また、睡眠時ブラキシズムは、睡眠中に脳神経や身体機能の周期的な変化や、それに伴う咀嚼筋の興奮の増減による影響をうけるので、睡眠の変化や異常によって影響をうける可能性がある。今回は、チェアサイドではうかがい知れない睡眠時ブラキシズムの病態生理について、最新の知見を交えながら解説したい。

《略歴》

1970年大阪生まれ。

1994年大阪大学歯学部卒業。

1998年同大学院（口腔生理学）修了。

1998年よりモントリオールサクリカ病院睡眠生体リズム研究所、

モントリオール大学神経科学研究所・同大学歯学部、 研究員・研究助手

2003年より松本歯科大学講師・同大学院准教授、同病院歯ぎしり無呼吸症外来主任

2008年9月より現職。

《所属学会》

IADR Neuroscience group・President（2009年）

日本臨床睡眠医学会役員（Secretary）

日本睡眠学会・評議員および認定歯科医

《その他活動》

Jean-Paul Lussier Prize (2001),

CADR Post-doctoral Research Award (2001),

IADR Distinguished Scientists Award (Young Investigator Award) (2005) 受賞,

IADR Neuroscience group・President（2009）,

日本睡眠学会・評議員および認定歯科医, 日本臨床睡眠医学会・Secretary,

日本顎口腔機能学会・評議員,

Journal of Dental Research編集委員（2006-2008）,

Journal of Oral Rehabilitation・Sleep Medicine Research現編集委員